

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992100032		
法人名	有限会社ポブラサポート		
事業所名	グループホームぽぶら		
所在地	栃木県河内郡上三川町大字石田1231番地3		
自己評価作成日	平成28年12月15日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者、家族、職員を含め、大家族が一つ屋根の下で生活しているという考え方の元で、家庭的な雰囲気の中、個人にあったすごし方が出来るよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、町の北西部の農村地域に位置し、インターパークや北関東自動車道インターチェンジにもほど近く、のどかでありながらも利便性に富んだ環境にある。建物には県産材の檜をふんだんに使用し、明るく暖かみのある落ち着いた空間となっている。広い前庭や中庭は、散歩やバーベキューなど日常的に戸外に出て楽しめるほか、冬の時期にはイルミネーションを設置し、室内から夜間の景色も楽しめるよう工夫している。グループホーム＝家との認識のもと、利用者と職員、利用者家族も含め、皆がひとつの家族のように、ともに支え合い、ともに生きることを大切に、家庭的な雰囲気作りに努めている。開所2年目であるが、積極的に地域に出て事業所や利用者について知ってもらい、顔見知りの関係を築くよう努めているほか、事業所での様々な行事のチラシを配布し参加を呼びかけるなど、地域との繋がりを重視している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成29年2月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに生きる」という理念を掲げ、入社時及び年1回の内部研修を行い、共有し実践できている。	日々の支援にあたり、常に理念を念頭に、職員と利用者とは互いを思い合い、共に支え合いながら、家族のように接することを心掛け、理念を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域店舗への買い物、地域の催しへ積極的に参加し交流をしている。 又、事業所イベントの際はチラシ配布を行い地域交流を深められるように働きかけている。	地域との繋がりを重視し、顔見知りの関係構築に向け創意工夫に努めている。石田神社祭礼での太々神楽奉納の見学や、福祉祭りなど地域の各種催しへ出向くほか、地区の夏祭りでは御輿の休憩所となりかき氷等を振る舞ったり、事業所の地域交流会に地域の方を招待したりと、相互交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所イベントを実施し、認知症の方が入所している施設であることを地域の方々へアピールができたのではないかなと思う。 支援方法は今後、発信していく方向である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に運営推進会議を実施しご家族様や、行政の方々に参加いただきご意見をいただき、運営や活動に反映している。	町職員・民生委員・町会議員・利用者・利用者家族等の参加のもと、行事報告や運営について活発に意見交換をし、サービス向上に活かしている。	より一層の地域の理解と協力を得られるよう、時には議題に合わせ警察・消防関係者など外部の方の参加を働きかけるなど、更なる取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にもご出席いただき、また日頃から連絡をとり相談、助言をいただき連携を図っている。	運営推進会議への出席の他、情報を提供してもらったり、各種手続き等を通し、町の担当者とは日頃から連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、徘徊には理由があるという考えのもと、利用者の行動には全て理由があるということを念頭におきケアを実践している。	外部講師を招いた毎月の勉強会の中で、拘束にあたる行為についても理解を深めている。夜間は安全面から玄関の施錠とベランダ側窓に赤外線センサーを設置しているが、日中は施錠せず戸外への出入りも自由であり、徘徊等にも見守りにより対応している。言葉かけの配慮や気配りに努め、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴の際は全身チェックを行い、アザなどできていないか、介助方法に無理や間違いはないかお互いに注意を払いケアカンファレンスにて共有している。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、制度について理解を深め活用し支援していきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し理解したうえで契約していただいている。 また、契約時には不安や疑問、要望をたずね支援を実践している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで意見交換ができる場を設けたり外部機関もある事を伝え言いやすい雰囲気作りに努めている。 また面会の際には声をかけコミュニケーションをとるようにしている。	運営推進会議のほか家族会を開催し、お茶会をしながらの意見交換の機会を設けている。面会の際は話しやすい関係づくりを大切にしている。出された意見・要望等は前向きに検討し、サービス向上につなげている。	家族等の意見を取り入れる工夫の一つとして、日常の様子や職員紹介等を掲載した広報誌の発行等、事業についてより理解を深めてもらうための方策の検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議での意見のみではなく、日常会話のなかから引き出し運営している。	朝礼や毎月の会議で話し合うほか、年2回個別面談を行っている。行事の提案や設備についての要望、日々の支援に関する工夫等、日頃から活発に意見交換している。対応できる内容についてはすぐに運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が年2回職員と面接を行い目標設定及び、結果と反省を行っている。 また、外部研修へ参加し資格取得を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、外部講師を招き研修を実施し知識と技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所全体では実施できていない。 サービスの質の向上のためにも同業者との交流をする機会を設けていく。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される際どの様に生活したいのかを聴取し、不安、要望に耳を傾け本人の意向に寄り添い安心して生活ができる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、ご家族様の要望、不安な点を聴取し安心して生活ができる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に面談を行い、今何が必要な支援なのかを判断し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴、性格、力量に応じ得意分野を伸ばしていただき、また、不得意なことは他社へ依頼しお互いに助け合いながら生活できる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は近況報告をし、生活の中での気付きや変化を伝え、また、ご家族様の意向も汲み取り家族の絆を深めていただける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のイベントやお祭りの際は外出し馴染みの人や場所とのつながりが途切れないよう努めている。	馴染みの美容室の利用、地域の新年会への参加や墓参り、正月の自宅への外出等、家族の協力を得ながら、これまでの関係継続を支援している。近所の方や踊りの趣味仲間だった方など、馴染みの方々が訪ねてくることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を理解し、作業などの場を通して利用者同士が係わり合い、支えあえる様な関係を構築できる様努めている。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も必要に応じてご家族様や、関係機関との情報交換、支援を行っている。 また、外出先でお会いした際は近況をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成、修正の際は、本人の意向を聞き取りし把握に努めている。困難な場合にはご家族や関わる方々から情報収集し、本人の生活にあった支援になる様に検討している。	どのような暮らしを望んでいるのか、本人の思いを大切にホームでの生活が送れるよう、日々の関わりの中で傾聴に努めている。困難な場合も、表情や仕草、食事の食べ方、何気ない言葉など日頃の様子から察し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や好きなこと、楽しみを把握し支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	性格、生活歴、ADLを理解し現状維持を目指している。 心身状態に応じ無理はせず、その人らしく生活できる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケースカンファレンスを行い、身体、精神面の変化など話し合いニーズに合ったケアが実践できる様に努めている。	毎月のケースカンファレンスでは近況や対応について意見交換し、職員間で情報共有している。介護計画は半年毎の見直しを基本とし医師、家族、職員意見を取り入れ作成している。入退院時や状況の変化等、必要に応じてその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に記入し、職員間で情報共有を行い支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況もくみ取り、できる限りニーズに応えられる様に取り組んでいる。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや町の主催する行事に参加したりイベントへ外出し、ご近所の方との交流が途絶えないよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が信頼する医師、病院を選択していただき受診している。	協力医の訪問診療が月2回あるほか、大病院や利用前からのかかりつけ医等、本人の希望する医療機関の受診を支援している。受診は原則家族対応としているが、遠方などで困難な場合は同行支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月ケースカンファレンスを行い、日々の情報共有と毎日の変化を報告し合える環境づくりに努めている。緊急時には24時間体制で連絡が取り合える体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室を中心に情報交換や情報共有を行い、連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで可能なケアやサービスについて入居前に説明を行っている。入居後もご家族、本人とどのように週末をむかえたかを話し合い、希望に添えるようにしている。	利用開始時に、終末期や重度化した場合の対応について家族に説明している。容態が変わった時は、病院への救急搬送を希望する家族が多い現状にある。看護師が常駐しており、過去に訪問診療の医師と連携しながら看取りを行った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の初期対応ができるよう、心肺蘇生法を受講し、施設内でも勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行いそのうち1回は消防署の協力を受け備えている。 また、スプリンクラーの設置、非常食、水の確保をしている。職員間で避難場所の共有を行っている。	日中・夜間想定で、年2回の消防訓練を行っている。避難経路や災害時の対応について職員はしっかりと身につけている。夜間も併設の小規模多機能事業所、当直職員を含め4人体制で対応し、消防との連携・協力体制も整っている。発電器や井戸水の確保、食料の備蓄も十分に備えている。	

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声かけを行い、自尊心を傷つけない対応を行っている。 利用者中心の生活ができるよう心がけている。	プライドや自主性、性格に配慮し、一人ひとりにあった声かけを工夫している。名前の呼び方はさん付けを基本とするが、名字や下の名前、昔なじみの通り名など、本人の馴染みのある呼び名を尊重している。居室ドアの開閉やトイレ誘導時の言葉かけなどに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、今、何がしたいのか、どうなりたいのかを知り、思いや希望がかなえられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重し、一人ひとりのペースに合わせて希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は身だしなみを整え時には化粧を取り入れ、その人らしく生活できる様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の提供や調理が得意な利用者と一緒に準備をしている。	テーブル拭きや配膳下膳、調理の下ごしらえ等、ひとりひとりの残存機能を活かし利用者と共にやっている。お手製ぬか床や、しもつかれ作り、炭火でのサンマ焼き、焼き芋、畑の野菜収穫など、日常的に食を楽しむ環境づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の把握に努め、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。 習慣化され、何も声をかけなくても自ら実施できる利用者も増えた。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの行動パターンを理解し、声かけ、誘導を行っている。訴えの少ない方も定期的に声かけを行い誘導している。	排泄チェック表をつけて管理している。日中は見守りや様子を見ての声かけをすることで失敗を減らし、リハビリパンツから布パンツへの移行を実現している。夜間はパット等使用する方やポータブルトイレを使用する方もいるが、誘導で支援し自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い毎日観察している。水分摂取と運動を取り入れ予防に取り組んでいる。また、食事の工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前10時～16時の時間帯とし週3回は入浴ができる様にしている。その人の希望に応じてシャワー浴、清拭など選択している。	入浴剤の他、ゆず湯や菖蒲湯など季節感をとり入れた入浴が楽しめるよう工夫している。基本の時間帯は決まっているが、拒否のある方などには体調や気分に合わせて時間変更や日を改めたりと、個々のタイミングに応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況や習慣に合わせて午睡を取り入れたり安心できる場所を選択していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の作用、副作用について情報共有し、状態の変化を医師へ報告し調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人がやりたいことや、生活の中で頼られているという喜びが最大限に感じられるように、言動、行動から瞬時に察知し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の希望に合わせて、周辺の散歩や外出を行っている。	散歩やゴミ捨て、買い物や芝居の見物等、一人ひとりの希望にあわせ、日常的に戸外へ出る機会を設けている。お花見や紅葉狩り、SL乗車、ブドウ狩りやブルーベリー狩り、栗拾いや芋掘り、イルミネーションの見学、初詣など、季節に合わせた外出支援も月1、2回程度行っている。	

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もいるので、希望がある時は買い物へ外出し、支払いなどを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添い、電話やハガキ、手紙のやり取りができるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の創作や飾りつけをし、利用者や家族に楽しんでいただいている。 室温、湿度も調整し過ごしやすい環境になるよう整えている。	県産材の檜など、木をふんだんに使用した造りで、南側に面したりリビングは自然光が差し込み、吹き抜けで広々とし、明るく温かい。快適な温度湿度の空調管理に努めている。小上がりの畳の部屋は休憩や憩いの場の他、家族との団らんにも利用している。トイレや浴室は混乱しないようわかりやすい表示を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースに横になれるようにしたりソファでくつろげるよう配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。配置も本人や家族に行っていただいている。	ベッド・布団・エアコン・洗面台・テレビ・照明・カーテン・時計・加湿器等が備え付けである。その他、使い慣れた寝具や筆筒・テーブルや椅子・趣味の道具や装飾・仏壇等、持ち込みは自由で、各々その人らしい居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっているので自由に車イスをこいだり散歩できるようになっている。できることを最大限活かしていただけるように見守りや支援を行っている。		